

## 湿原を列車で行く

このコラムを書くようになってから、北海道の風景にまつわる、その土地の名前や由来、地形の面白さに興味がどんどん湧いてくる。北海道は雄大でまだまだ未知の大地だなあと思う。今年2月、標茶に行く仕事があり、雄大な自然あふれる釧路湿原に思いを馳せた。

日本で一番大きな湿原の釧路湿原は、2万年前は陸地だったそうだ。次第に海に沈み、長い時間をかけて海水が引き、複雑で豊かな生態系を育み、今の姿の湿原へと変わってきたとある。地球はとんでもなく長い時間をかけて、ゆっくりと変動している星なのだ。その上に住む私たちは、地球と共に生きている。湿原を見ているとこれ以上の負荷を地球になるべくかけず、人類は謙虚に暮らしていかななくてはと改めて思う。

今年は東日本大震災から12年、トルコでの大きな地震もあり、近年は世界中で自然災害が起きている。被災した方々が1日も早く日常を取り戻し、安心した生活が戻ってきますようにと、心から願う。

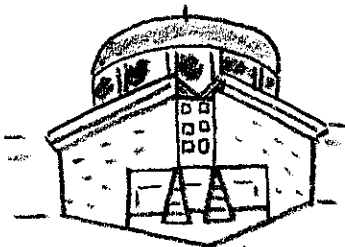
さて、「SL冬の湿原号」が釧路駅から標茶駅まで、3月中旬まで運行している。この号が出る頃には終了しているが、4月下旬から10月までは「くしろ湿原ノロッコ号」が、釧路駅から塘路駅まで運行される。乗りたいと思っていたが、今回は車移動になりSLはお預けに。せめてその姿だけでもと、友人が見学できるように連れて行ってくれた。雪景色の中をSLが走る姿が、幼い頃に見たSLを思い出し、とても懐かしかった。



### すずき もも

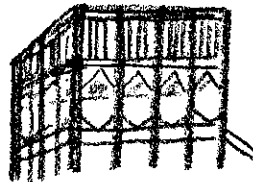
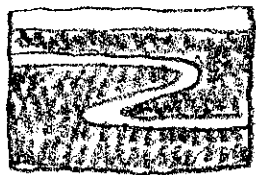
イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



釧路湿原展望台  
湿原を散策でき、  
レストランもショップも  
あります！建物は  
「ヤクホウズ」の形を  
しています！

細岡展望台  
駐車場から500m  
上るといくと素晴らしい  
景色が広がる展望台、  
蛇行する釧路川\*



サルボ展望台&  
サルリン展望台  
湿原の北側にあり  
塘路湖やサルリン沼  
などを見ることができ  
ます。そして、湿原を走る電車も！



わあ！！感動！